



富士河口湖町

議会だより



富士河口湖町が誕生し初の甲斐の勝山 やぶさめ祭り
流鏝馬神事（天長地久の式）地元氏子青年組によるヤッコ

- ◆ こういうことを決めました——3p
- ◆ 町の予算は、こう使われます——4～5p
- ◆ 決算特別委員会審議——6～8p
- ◆ 予算特別委員会審議——9～11p
- ◆ 一般質問——12～15p
- ◆ 特集——16～17p

**3月
定例議会**



議長就任のあいさつ

富士河口湖町議会議長 倉澤 鶴義

議長就任にあたり一言
ご挨拶を申し上げます。

平成十六年三月富士河口湖町議会定例会におきまして、議員各位の御推挙をいただき、議長の要職に就くことになりました。

その使命と責任の重さを一層痛感しておりますが、ここに皆様の御推薦を受けましたうえには富士河口湖町の発展と町民福祉の推進に誠心誠意努力をいたす覚悟でございます。

議会運営におきましても、中立公平無私の立場を堅持し、議会の円滑な運営のため懸命の努力を傾注する所存であります。

昨年十一月十五日、合併以来五ヶ月が経過いたしました。私は町村合併の目的は単に町村の枠を取り払うというのではなく、旧町村の持つ持っているそれぞれの地域の人材・文化・産業等の資源

を有機的に連携活用しながら新しいまちづくりを行う絶好の機会だと思っております。

今までの町村の枠にとらわれた地域振興策を越えた新しい枠組みの中で新機軸として新しい発想に立ったまちづくりが可能となります。

今までのまちづくりを振り返りつつ自分たちの子や孫のためにも、執行部・議会・町民一体となつて対話する中で新町のまちづくりを行っていきたいと思っております。

山梨県におきましても、山本知事が本年四月山梨県長期総合計画「創甲斐プラン21」の概要を発表いたしました。

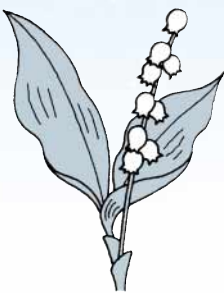
特に注目する施策の中に観光立県「富士の国やまなし」の確立を目指した観光振興戦略打ち出した事であり。まさに、時代を生き抜くことができる足腰の強い産業の振興を図る施策であり

ます。

富士河口湖町におきましても、旧河口湖町が進めてきた五感文化構想の推進と合併による新町建設計画を柱とし、観光立町の立場を堅持する中で町と県が一体となり、その目標実現のため、執行部・議会が一丸となつて努力していくことが我々に課せられた使命と責任であると思ひます。

私達議会といたしましても、町民皆様方の付託に応え信頼と期待される議会を目指し、なお一層の努力をする所存であります。

今後とも町民皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。任の挨拶といたします。



行政報告 (要約)



合併初年度の予算

富士河口湖町長 小佐野 常夫

平成十六年度富士河口湖町の予算は、合併初年度となりますので、将来を見据えた健全財政のルール及び基準づくりとして、基礎的財政編成と位置付けて取り組みました。

本町は、環境（地域づくり）教育（人づくり）観光（経済）交流（融和）の4Kを戦略目標として、環境への負荷の少ない自然と調和した循環型地域の形成。学校・地域・家庭における子供の育成支援。地域資源の活用を図り観光産業関連の促進。すべての人が自立し、生き生きとして一人一人の交流が深まる共生型社会を実現する町づくりを目指すことといたしました。

目標に向かって五つの基本施策として、一つ目は、規定路線又はその延長上で事務事業の見直し、スクラップ&ビルド、プラス財政のリフォームなどを大胆に進め、町民が

実感できる成果をあげることを目標に取り組みました。

二つ目として、経常経費の削減縮小と補助金等の見直し、消防団員の減員、組織の整理縮小。また、敬老祝い金は、喜寿・米寿・百歳到達時の節目の年の交付とさせていただきます。

三つ目として、合併により増大した公用車両の削減と集中管理による維持費の削減や設備保守を一括集中扱いとして物件費の削減をいたしました。

四つ目として、職員等の給与を官民格差を是正する情勢適用の原則から、年間給与を五年連続して減額してまいりましたが、更に、管理職手当、時間外手当の圧縮、更には、旅費日当の廃止、その他手当につきましても、見直しております。

また、今後は、職員評価委員会を設置し、評価制度を導入するなど能力

給与制度や職員の資質向上等の制度構築に取り組み予定であります。

五つ目として、新しい財源確保として、俗称「赤路」を国から譲与されたことにより占有料を財源として見込めたこと、更には、ごみ対策として一定量以上の営業による可燃ごみ処理を有料とした予算も計上しております。

また、本格的に取り組むこととなる合併による町の建設計画は、町内六地区で開催されました地域振興協議会へ説明すると同時に、貴重な意見をいただいたことや地域特性を生かすなど諸条件を調整しながら、地域に隔たりがないよう事業の推進に努めていきます。

予算編成に当たっては、極めて厳しく取り組みましたが、こうした状況下での行政運営こそ「自治体の真価を問われるとき」町民の皆さんのご協力をお願いいたします。

こういうことを 決めました。

1月臨時会
3月定例会

一月臨時会は一月二十六日に開催されました。議案七件を審議し全議案を原案どおり可決しました。

議案

- 一 北岸幹線污水管渠布設工事（八区）請負契約締結
- 二 富士河口湖町船津公園墓地及び小立公園墓地条例
- 三 町道の路線認定
- 四 平成十五年小立財産区・勝山財産区・大嵐財産区特別会計・富士河口湖町一般会計補正予算

三月定例会は三月四日から二十六日までの二十三日間開催されました。

定例会に提出された案件は議案五十四件、認定三十五件を審議し、全議案を原案どおり全員一致で可決しました。

議案

- 一 富士河口湖町名誉町民及び特別町民条例・富士河口湖町地域振興基金条例・富士河口湖町公共物管理条例・富士河口湖町学生宿舍設置促進条例・富士河口湖町足和田交流センター条例・富士河口湖町地籍調査推進委員条例
- 二 富士河口湖町長等の給与及び旅費に関する条例・富士河口湖町教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件認

- 可する条例・富士河口湖町参与設置条例・富士河口湖町廃棄物の処理及び清掃に関する条例・富士河口湖町印鑑条例・富士河口湖町介護保険条例・富士河口湖町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例・富士河口湖町消防委員会条例の一部を改正
- 三 町道の路線廃止
- 四 町道の路線認定
- （市町村合併に伴い道路の編成）

認定

- 一 平成十五年富士河口湖町一般会計補正予算ほか十件
- 二 平成十六年富士河口湖町一般会計予算ほか二十六件
- 三 平成十五年河口湖町一般会計歳入歳出決算ほか十七件
- 四 平成十五年勝山村一般会計歳入歳出決算ほか四件
- 五 平成十五年足和田村一般会計歳入歳出決算ほか九件
- 六 平成十五年河口湖治水組合一般会計歳入歳出決算
- 七 平成十五年河口湖南水道企業団事業会計歳入歳出決算

富士
河口湖町
特別町民に



假屋美尋氏
（綾小路きみまろ）
清水國明氏

町の予算は、こう使われます。

平成16年度

予算総額は

92億4,000万円

平成16年度特別会計予算総括表

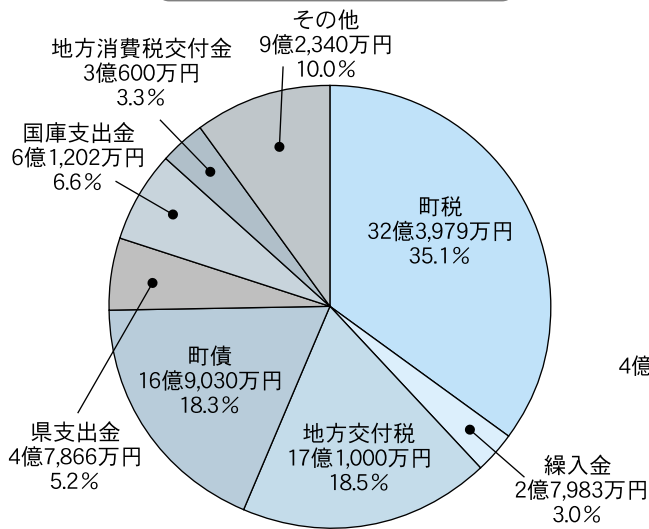
単位万円・4捨5入

事業

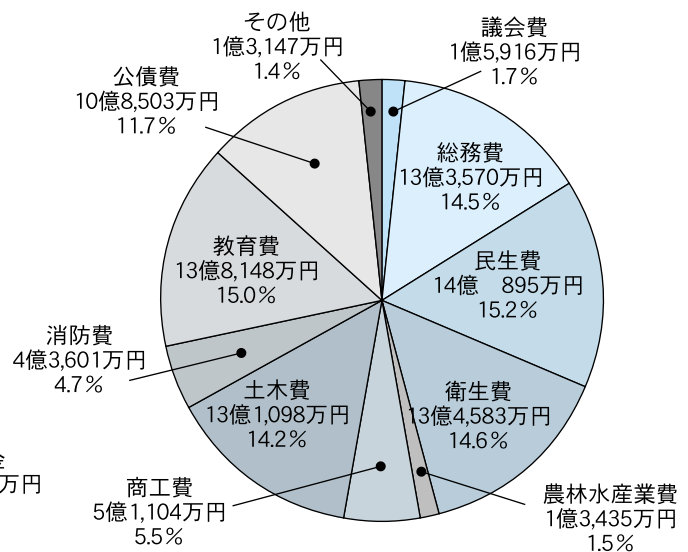
建設	消防・防災	教育
		
<p>* 道路維持費 5,197万円</p> <p>* 道路新設改良費 2億4,752万円</p> <p>* 河川改良費 500万円</p> <p>* 公園費 2億455万円</p> <p>* 都市計画総務費 4,388万円</p> <p>* 住宅管理費 198万円</p>	<p>* 常備消防費 2億5,133万円</p> <p>* 非常備消防費 2,585万円</p> <p>* 消防施設費 3,500万円</p> <p>* 災害対策費 1億2,378万円</p>	<p>* 小学校費 1億2,918万円</p> <p>* 中学校費 2億61万円</p> <p>* 公民館費 3,650万円</p> <p>* 図書館費 6,468万円</p> <p>* 青少年教育費 882万円</p> <p>* 文化施設管理費 5,248万円</p> <p>* 体育施設費 1億3,901万円</p> <p>* 学校給食費 1億180万円</p>

会計名	予算額
船津財産区特別会計	3億5,250万円
小立財産区特別会計	6億5,227万円
大石財産区特別会計	3,587万円
河口財産区特別会計	5,117万円
西深沢外十三恩賜県有財産保護財産区特別会計	290万円
勝山財産区特別会計	9,894万円
長浜財産区特別会計	168万円
西湖財産区特別会計	893万円
大嵐財産区特別会計	2,687万円
青木ヶ原外七字及び小合山外七字恩賜県有財産保護財産区特別会計	106万円
小立簡易郵便局事業特別会計	1,001万円
河口湖治水事業特別会計	5,673万円
国民健康保険特別会計	17億8,064万円
老人保健特別会計	15億9,639万円
介護保険特別会計	6億1,699万円
居宅介護支援事業特別会計	1,068万円
船津公園墓地事業特別会計	1,046万円
小立公園墓地事業特別会計	1,055万円
勝山墓地事業特別会計	92万円
富士河口湖町水道事業会計	3億266万円
大石簡易水道事業特別会計	1,676万円
松風台簡易水道事業特別会計	641万円
河口簡易水道事業特別会計	4,398万円
足和田簡易水道事業特別会計	4,458万円
下水道事業特別会計	13億5,659万円
温泉事業特別会計	1億4,710万円
特別会計小計	72億4,364万円
合計	164億8,364万円

歳入予算の内訳



歳出予算の内訳



一般会計の主な

議会・総務	福祉推進	健康増進	環境	農林	観光
<ul style="list-style-type: none"> * 議会費 1億5,916万円 * 文書広報費 1,523万円 * 財産管理費 4億2,838万円 * 企画費 2,849万円 * 電子計算費 6,399万円 * 交際費 10億8,503万円 * まちづくり計画推進費 771万円 	<ul style="list-style-type: none"> * 社会福祉費 3億7,485万円 * 老人福祉費 2億919万円 * 在宅介護支援センター費 1,439万円 * 温泉休養施設費 2,367万円 * 高齢者たづくりセンター費 2,396万円 * 児童措置費 1億3,655万円 	<ul style="list-style-type: none"> * 保健衛生総務費 3億4,016万円 * 予防費 8,501万円 	<ul style="list-style-type: none"> * 環境衛生費 7,543万円 * 景観保全費 6,915万円 * 水道費 8,348万円 * 塵芥処理費 1億7,114万円 	<ul style="list-style-type: none"> * 農業振興費 484万円 * 農地費 2,374万円 * 水田営農活性化対策費 457万円 * 林業振興費 2,067万円 * 地籍調査費 3,191万円 	<ul style="list-style-type: none"> * 商工振興費 1億3,197万円 * 観光費 1億3,914万円 * ふるさとづくり事業費 1億5,205万円

決算特別委員会

審議応答

河口湖町 勝山村 足和田村

河口湖町決算

委員長 高山 泰治

特別会計関係

質問 旧ホテル小曲園の解体工事の進捗状況と跡地利用は。

答弁 上物の解体工事はほぼ終わった。天上山全体を街づくり総合支援事業での公園計画があり、展望台・公園として活用を考えている。



旧ホテル小曲園跡地

質問 温泉ランク付けについて。
答弁 温泉は現在41件供給している。新聞報道では動力源泉と湧水源泉という表現をしているが、

今後検討する。

質問 国民健康保険税の滞納繰越分の収納率は。

答弁 年度途中であり10月現在でほぼ昨年と同率である。また、滞納者に対して納税相談を行い納めやすい状況づくりをしている。現在、悪質な人四名に対して財産等の差し押さえをしている。

質問 特別養護老人ホームの待機者は何名いるか。

答弁 町でケアプランを作成したい人以外の把握が難しく、4〜5名は確認している。実際には特別養護老人ホームの待機だが老健施設・療養型病床群に行っている方も相当数いる。

企画課関係

質問 電算システムの負担額が、1町3村の合併が崩れた時の対応は。

答弁 上九一色村の動向を見守る中、電算の負担金については、約束事であり、起債を起こしてい

るので5年間、同様に庁舎の資金負担は一定率でいたたいっており、総合的な解決を図っていく。

税務課関係

質問 遊魚税で年券利用者に対する徴収は。

答弁 その都度税券を購入入りたい。また、またボート釣りに対しての周知徹底は、今後税務課職員がモーターボートの免許を取得し湖上パトロールで対応したい。

福祉推進課関係

質問 芙蓉の湯・健康プラザは、年間四万八千人の利用者があるが、レジオネラ菌の消毒検査料金と検査回数は。

答弁 レジオネラ菌の検査料は、一回二万円余りで、それぞれの浴槽で年二回実施している。

質問 保育所の保育料を下げる中で、収納率が下がっているが。

答弁 年度途中であり15

年度分を集約し、収納率アップに努める。

環境課関係

質問 資源ゴミの回収で今どのくらいの自治会・区が実施しているのか。

答弁 38の自治会・区で既に実施している。また、平成16年4月1日より旧

勝山・足和田村でも取り組んでいただく様、説明会を開いている。実施していない自治会・区に対しても働きかけを継続して行い、経費削減のためにも、ゴミの減量化に努める。



資源ゴミ回収 (小立乳ヶ崎区)

質問 河口の不燃物処理機の維持管理費で老朽化

に伴い経費がかかるが、状況はどうか。

答弁 若干手を加えながらの使用は可能という診断を受けている。青木ヶ原処理場も不燃物は処理しており、これとタイプアップした中で考えていきたい。

農政課関係

質問 イノシシ・猿の被害が出ているが、それぞれの生態調査と対策は。

答弁 昨年春イノシシ1頭を捕獲し、それに無線機を付けて生態について追跡調査を行ったが、意外と行動半径は狭く春から秋にかけて周囲一キロ四方であった。これを元に対策を講じていきたい。猿については、手を焼いており、16年度は県の環境科学研究所と協力して生態調査をしていく。

質問 ヒメスズキについてその取組みは。

答弁 昨年ブラックバスをヒメスズキと命名し、ワカサギと合わせて河口

湖の特産として推進して
いきたい。

観光課関係

質問 昨年8月チャレン
ジショップがオープンし
たが閉店が目立つが。

答弁 歩道の工事も関
係し閉店されている。町
としては、そこに広域看
板を付けランドマーク的
にしていきたい。

質問 合併により富士河
口湖町となったが観光看
板がいまだに河口湖とな
っている上、文字色も見
難いが。

答弁 ランドマークとし
てある東恋路・コーナ
ハウス交差点他の看板の
件ですが、16年度文字を
変えるときに色も変えた
と考えている。

質問 広告宣伝費で合併
のPR活動は。

答弁 合併記念ポスター
配布の他、各エージェン
トの冊子に富士河口湖町
の合併を載せていただき
広範囲に安価で告知活動

をしている。また、旅行
雑誌「じゃらん」との契
約も進めている。

質問 県営船津浜駐車場
の警備委託費三十九万二
千円の内容は。

答弁 警備は特に8月の
混雑期を中心としている。



県営船津浜駐車場

質問 苦情への対応は。

答弁 駐車場内に看板の
設置を予定しており、議
会の産経土木常任委員会
と協議しながら対応して
いく。また船津浜は河口
湖の顔という一面も持つ
ており、充分指導を進め
ながら県とも協議しマナ
ーの徹底を図っていく。

質問 駐車場内の看板設

置時期は。

答弁 県と看板文字の協
議に入っている。駐車場
の適正利用のためにも五
月のゴールデンウィーク
前に対応したいと思っ
ている。

教育委員会関係

質問 心の教育相談で報
償費が計上されているが
その内容の説明を。

答弁 相談員は一人いて
内容は、子供の悩みや不
安への対応や親に子育て
等のアドバイスをしてい
る。相談の
延べ件数は、
昨年の10月
までで40件
ほどあった。

質問 フィ

答弁 自然共生研究室の
中でオオムラサキのその
後の経過は。
答弁 河口地区にその里

質問 船津

と観察小屋を設置した。

町内小学校単位ではなく
育成会単位で夏休みを中
心に利用されている。フ
ィールドセンターは、町
外では東京方面からの利
用が多く小動物・自然溶
岩洞穴等の体験学習が行
われている。今後さらに
町内の小中学校や育成会
活動に利用されるよう努
力していく。

質問 自然共生研究室の
中でオオムラサキのその
後の経過は。

答弁 河口地区にその里



自然観察教室（フィールドセンター）

山づくりを行っていて、
オオムラサキの好む雑木
林を増やしている。また、
卵からさなぎまでの段階
の飼育をフィールドセン
ターで行っている。

質問 くぬぎ平の芝サッ
カー場を、学校教育の場
で取り入れる考えは。

答弁 現在芝サッカー場
は1面しかなく、大会で
週3日くらい使っていて
町内の利用は少ない。今
年はサブグラウンドも完成
し、2面になるので町内
の学校・スポーツ少年団
の利用も整えていく。

質問 河口湖美術館での
富士山写真大賞とその成
果は。

質問 河口湖美術館での
富士山写真大賞とその成
果は。

答弁 展示写真の募集は
昨年9月から行い全国か
ら五百六十九名から千六
百五十九点の応募があり、
中から百点選んで展示し
た。現在開催期間中で結
果は出ないが、成果が期
待できる。

質問 河口湖美術館が町
内小中学校の児童生徒に
どのくらい利用されてい
るか。

答弁 平成14年度では、
合計で約3万人が利用し、
その内の11%が各学校の
児童生徒の授業での利用
を含む町内の利用者であ
る。



河口湖美術館

勝山村決算

委員長 倉沢 鶴義

三百十八万七千円である。

質問 村民税・固定資産税の滞納繰越分の回収計画について。

質問 下水道の未加入は何件あるか。

答弁 未加入世帯数は10月末現在で49戸である。

質問 平成15年度末、公債の元金と利子の現在高はいくらか。

答弁 起債の額は、平成十四年度末現在、十三億五千三十四万四千五十円、十五年度の起債見込額千七百三十万円、償還見込額が七千四百三十八万二千八百七十七円、平成十五年度現在高が十二億九千三百二十六万九千九百六十三円である。

一般会計質疑

質問 地方債の現在高、元金と利子が幾らで合計幾らか。

答弁 旧勝山村地方債は一般会計現在高、元金十八億五百七十三万七千円、利子が六億七百四十四万五千円、合計二十四億千

である。

質問 道の駅の運営についての考えと、年間の見込について。

答弁 旧勝山村では、助役・収入役をはじめにプロジェクトチームをつくり、夜や休日に何うなど努力したが未収が残り、町で引き続きやっている。



道の駅かつやま

質問 道の駅かつやまの食堂の収支はどうか。

答弁 9月12日から営業をしたので、千四百四十万のうち一割弱である。

質問 商工労働観光費県補助金の四百万はどういうものか。

答弁 緊急雇用の関係の補助金で道の駅の清掃作業に従事するためのもの

質問 道の駅の運営についての考えと、年間の見込について。

答弁 11月以降は交替制にして人件費を削減している。年間の見通しは千九百万に食堂の収入がプラスされるが、未知数である。

総括質疑

質問 財産管理費の使用料及び貸借料とあるが、詳細は。

答弁 農協の倉庫使用料六十三万円。旧役場前の駐車場が二十四万二千円。テレビ等の使用料三万円である。

質問 倉庫と駐車場の利用頻度は。目的外の使用はないか。

答弁 倉庫は16年度は半分の費用で借りてあるが書類等は早急に引越すことを計画している。駐車場は、旧役場庁舎の利用計画と共に検討していく。

足和田村決算

委員長 朝比奈充知

答弁 居宅サービスの認定者は41人、施設入所者は8人である。

質問 今後の推移の見通しは。

答弁 予防対策はしているが、個々の生活のあり方であるので、ここではつきりと見通しはつかない。

一般会計

質問 アジサイを植栽して成功したものと枯れたものと今後の補修について。

答弁 以前も地域の有志と婦人会等で作業をしていただいた。ぜひ今後とも一丸となつて、適正な管理にご協力をお願いしたい。

質問 一般会計の延滞金について歳入で七百八十六万八千二百六円と、かなり徴収には努力した跡が見える。が、この中で時効分は何件で幾らだったか。

答弁 七百八十六万八千

二十六円の固定資産税分は23件である。軽自動車については八千円で2件、所在不明8件不良物件8件差押できない2件配当金〇円11件滞納金三百五十七万七千三百円である。

質問 土木費の中の委託費について、長浜地区の地籍調査の費用が一切支出されていないが、なぜ執行しなかつたのか。

答弁 改良区が問題になることで、河口湖へ取り込んで換地をしたために、線引き等、その割り振られた方に対しての金銭清算等が確認できた時点で、県等の立ち合いの中で線を引いて、改良区の外周りを確定する。その上で作業に移るといふ順序で行いたい。



根場地区下水道工事

介護保健特別会計

質問 居宅介護サービス給付費千四百六十四万円、施設介護サービス給付費千七百三十九万八千円とあるが、この対象人員は何人か。



リハビリ教室

予算特別委員会

審議応答

総務課関係

質問 辺地振興資金元利補給とは。

財政係長 旧西湖南と根場地区が辺地債の指定を受け借りていたものであり、その地域における事業の借り入れ振興資金の償還に対して県で55%補助しているものである。

質問 新たに創設された制度資金的な起債があるが、町での対応は。

財政係長 国の地方自治体の事業に対して三位一体による交付税の削減によりいくつかの借り入れ起債をあげている。地域再生事業債と財政健全化債があるが、新町において、合併特例債等有利な起債があるので、今のところ、借りる予定は考えていない。

管理課関係

質問 船津地区の住民が非常に関心事である旧河口湖町庁舎改修工事につ

いて、検討委員会を立ち上げ、地域の意見を取り入れながら、8月着工、年度内完成が目指せるものなのか。

町長 建築確認等がそれほど必要としない建物なので、4月から、少なくとも数回検討委員会を開催し、3階は取り壊し、1、2階を地域住民の意見を反映した住民の交流センターとして共用できる方向で年度内完成を目指していきたい。

質問 新庁舎の防災対策室を利用し、消防をはじめ、関係者とのシミュレーションの防災訓練の考えは。

町長 消防団をはじめ、各組織等々に協力をいただきながら、防災担当との連携を図りながら考えていきたい。国、県も、観光防災面について、力点をおいて考えていくと示されたところであるので、観光施設のオーナーの皆さんとも協議し防災訓練について対応していきたい。



防災対策室

質問 富士山防災マップ作成の方向性は。

防災係長 本年、地域の特性と地理的条件をみたした富士山防災マップ、富士河口湖版の作成に向けて予算を計上させていただきます。16年度中に完成をしていきたいと考えている。

企画課関係

質問 個人情報のデータ流出等騒がれているが、新町において、セキュリティポリシー策定へ向けた取り組みは。

情報推進係長 合併前の準備段階から情報システムの統合に向けて策定の

準備を進めているのが現状である。現在の作業状況は関係職員で、起案にむけて、基本方針、ガイドライン対策について、内容を精査検討しているところである。

町づくり推進室関係

質問 船津財産区地内の企業誘致の現状は。

町づくり推進課長 山梨県を通じて引き合いがきた製薬会社で、船津地区登山道沿いから上にかけての船津財産区地内で、初期段階として1万坪、将来的には3万坪の用地を確保して欲しいとの旨であり、現時点では、正式に決定したものではありません。



企業誘致予定地（船津三の段）

く進行形の状態である。
町長 企業誘致の問い合わせは、ほかに幾つかある。今はまさに、地域の自力をつけなければならぬ時代であるので、この追い風を利用し、幾つかの企業誘致をまとめていきたいと考えている。

税務課関係

質問 個人町民税の現年課税分は課税総額の97%（七億一千万円）を見込み計上されたとの事ですが、滞納繰越分においては、何%見込みましたか、同様に、固定資産税については。

税務課長 個人町民税の滞納繰越分税総額の19%（二千五百万円）と固定資産税滞納繰越分税総額の14%（五千五百万円）を計上したものである。

質問 標準地時点修正調査及びこれに伴う価格公示については。

税務課長 基準年度である、3年に一度の評価替えの他、土地等が著しく

下落した場合等、時点修正調査を必要に応じ行い、また、これらに関し価格公示は税務課で公示している。

質問 いまだに、合併に伴い固定資産税が、高くなってしまう旨の話をよく耳にするが、土地の公平な課税に対して、今後の新町の方針は。

税務課長 合併による固定資産税の増額は一切なく、また、今後の業務計画においては、税の公平適正課税を行うため、一筆実態調査を行い、次の基準年度（平成18年度）あるいは5年以内に整備していく方針である。

健康増進課関係

質問 町民ふれあいセンターの改修工事一億九千二百万円の内容説明を。

健康増進課長 健康科学大学で、リハビリクリニック開設の希望があり、あわせて耐震補強工事をするものである。

町長 町民ふれあいセン

ターは、総体的に見て健康プラザという位置づけであり、この中心的な担いをするものと考ええる。また、諸関係者、議員等々を交えた検討委員会を開く予定である。



町民ふれあいセンター

質問 B型・C型肝炎患者の事後指導は。

健康増進課長 保健師が個別指導をして肝がん・肝硬変に移行しないよう注意を促している。

福祉推進課関係

質問 滞納繰越しの徴収方法について。

福祉推進課長 専門徴収員が税務課にいたので、綿密に打ち合わせをした

中で徴収に努める。

質問 敬老会に地域格差があるが見解は。

福祉推進課長 敬老会は地区社会福祉協議会が中心になって行っているが、各地区の体制作りを検討中である。地域格差がないよう配分していく。

質問 町内それぞれの児童館の運営は。

福祉推進課長 児童館は船津・小立・河口・大石・勝山・大嵐にあり、研修会への参加や情報交換しながら運営している。



大嵐児童館

質問 16年度予算で保育料が下がるがサービス低下はないか。

福祉推進課長 子育て支援・少子化対策の一環で行うものであり、サービス低下はない。

質問 各保育所での給食の賄いで、単価統一は。

福祉推進課長 町内に保育所は7園あり、子供に与えるものであり公平的に配分する様に対応を図っている。

質問 障害者福祉促進事業と、障害者の人数は。

福祉推進課長 障害者を持った人が社会参画するもので内容は、手話の奉仕員の要請・耳の不自由な人に声の広報等の提供・レクリエーション・福祉運動会への参加等々であり、町内には約六百名の障害者を持った方々がいらっしゃる。

理由は。

環境課長 ゴミの減量化と自分の出すゴミに対する自己管理である。また、大規模事業所から排出されるゴミについて排出責任と受益者負担を考慮し有料化を導入した。

質問 月千キロ（可燃物処理）を越えるものに関して「キロ四円の処理料」負担の算定基準は。

環境課長 今、吉田へ搬入している可燃物の処理料がトンあたり二万二千〜二万五千円で、その20%ぐらい負担とし四円とした。

観光課関係

質問 いやしの里創出事業について。

観光課長 住民との話し合いを持ちながら、地域の方々の考え方を取り入れ、地域と作り上げていきたいと考えている。建物は、茅葺という特殊な技術が必要なので、技術者の育成等も視野に入れながら、手づくりで仕上

げていきたい部分もあるので、組織を受け入れられる協議会を作りたい。

質問 コウモリ穴の収入の内訳について。

観光課長 物販収入が五百五十万円で、施設使用料が一千九百万であり、合計二千四百五十万円である。



コウモリ穴売店

質問 フィッシングカッターの概要について。

観光課長 企業誘致で旧河口湖町が決定し、4月12日に開校する4年生の大学である。勉強の内容は、バスプロやルアーピィルダー等の養成であり、80名ほどの生徒を本年受

環境課関係

質問 ゴミ（可燃物処理）の有料化に至った経緯、

けられる。

質問 地域の味研究会の活動内容は。

観光課長 10名ほどの女性を中心となり、食堂、飲食店等の味が観光資源となるだろうと言う考えで活動している。今後、吉田のうどんマップのように、サービス内容、食べ物等の内容までも、良いものは観光資源とし、推奨できる店のマップを作っていくと活動している研究会である。

水道課関係

質問 水質検査はどのような方法で行われているのか。

上水道係長 水質検査は水道法に決められている内容により、一般家庭の蛇口よる毎月検査と年一度井戸の源水の検査を実施している。

質問 第三源泉の掘削事業について、源泉の運用、活用等々の考えは。

町長 ふれあいセンター



温泉掘削予定地

のところに、第三源泉を掘削し、湧出すると、自然流下で、湖畔側に給湯できることが特徴のひとつである。また、現状、使用料と給湯のバランスは、90%まで達しており、一本の源泉にトラブルが起きた場合、完全給湯ができなくなるために、第三源泉が必要となるものである。将来的には、勝山地区への給湯も、状況をみながら、伸ばしていきたいと考えている。

建設課関係

質問 道路維持のエリアが広がり非常に管理は大変であると考えますが、道路パトロールは、どのよ

うな方法で行っているか。
建設課長 4月からは、臨時体制の中で、チーム等を編成し、悪い箇所の改善に努め、また、職員の通勤時に、協力をお願いし、各区域毎の道路等の悪い箇所の把握に努めていく考えである。

生涯教育課関係

質問 今年夏、開催予定である、全国中学校サッカー大会の詳しい説明を求める。

社会体育係長 参加チー



芝サッカー場

ムは32チーム、内16チームが河口湖会場で1〜3回戦14試合（8月20〜22日）を行う予定であり、メイン・サブサッカー場

の二面が使用され、町内での宿泊をお願いしている。

学校教育関係

質問 小中学校のスキー教室の実施について。

町長 今後小学校ではスキー・中学校ではスキー教室にして、スポーツクラブや地域型のスポーツに切り替えたい。

質問 豊かな心を育てる人づくり事業について説明を。

町長 子供たちのソフト面・子育て・人づくり、其々の活動費として小学校に二十万・中学校に百八万円計上した。

教育長 各学校長の経営方針・やる気によって学校ごとの特色が出せ、教育効果が生み出せる。一例として、PTA独自で大規模な奉仕活動をした例もある。

質問 各地域間での給食費補助金の格差と、センター化について。

町長 補助金の格差は一〜二年の推移を見ながらレベル化を図っていく。また、各地域のセンター化については教育委員会が検討中である。

文化振興局関係

質問 ステラシアター・円形ホール等のボランティア組織であるサポーターズクラブの現状は。

文化振興局長 メンバーは富士五湖全体から集まっております、健康科学大学生5名を含め、総勢50名で施設の運営に協力していただいている。



サポーターズクラブ

総括質疑

質問 町の財政を取り巻く環境も、地方交付税、補助金等の削減により、年々厳しくなっていくと思われる。今後、将来的に、どのような対応を図っていくのか、また、将来構想についての考えは。

町長 今後は、税収のアップに努め、滞納の処理を促進するために、税務課とは別に、3、4名からなる滞納の処理班を設置し、収納率のアップを目指していく。さらに、新たな収入の狙いとして、既設の施設の民間への貸し出しも一つの方法であると考える。人件費削減については、新規採用の計画も視野に入れながら、中期計画を立て、人員削減を考え実行していきたい。将来は、観光に加えながら、富士河口湖町の新しい理想としては、産業の企業誘致を図り、大学の誘致を基軸に、国際学術都市構想を視野に考えている。

ここが聞きたい! 質問



井出庄一郎議員

効果的行政経営の 実現について

質問 三位一体改革の中、合併特例債の活用は。

町長 新しい観光産業の創出、従来の旧河口湖町に加えて西湖エリアの自然豊かで誇れる青木ヶ原樹海、根場、西湖地域の活性化を図り新観光産業づくりに目を向け、新たな水産業ということ、河口湖にワカサギの養殖場、西湖にヒメマスの養殖場をつくり、県が提唱している地産地消事業を旧河口湖町がテーマに持っていた五感文化につなげ、今後行政経営の実現を考えている。

地域産業の 振興策について

質問 自己財源自己経費

を賄う経営が義務づけられているが他産業との連携を強め、相乗的展開を提案されているが、振興策は。

町長 県でも「富士の国山梨」観光立県を標榜、この追い風を利用し、観光施策の充実を図る。

また、観光学術に加えて企業誘致を図り、学術都市、更に企業で生きられる三脚輪で今後町づくりの基本に据えていく。



健康科学大学

町民主導地域づくり の推進について

質問 住民の日常生活に関わるごみ対策・健康・福祉・防災・コミュニケーション形成等の対策は。

企画課長 住民パワーを結集し、大きな成果を着実に上げている。ボランティア活動は、広域的な領域があり、今後ますますマクロ的な活動組織になっていく。

新町前期重点事業 について

質問 新町建設計画が策定され、国や県の支援を受け、重点施策実施に移行すると思うが次の三つのテーマ毎に伺いたい。

一 街角公園整備事業

建設課長 重点地区の選定は、都市公園法を基本とし、船津地区は、船津土地改良事業が終了後森づくり計画、小立地区は、区画整理事業の中で計画、河口地区は、紅葉まつり会場である紅葉公園、梨宮紅葉公園等基本計画で実行する。

また、船津小海線の一部用地を購入し、街角公園的なチビッコ公園的二公園の建設計画もある。

二 図書館と子供想像館の建設

生涯学習課長 図書館は2千平米程度で、現図書館の約十倍の広さにしたと考えている。

中身は一般図書を並べ、開架書庫スペース、子供向け図書の絵本コーナー、また、郷土の貴重な資料を収集し保管・閲覧できる郷土資料室、更に、町民から要望の多い閲覧スペース、学習スペース、くつろぎスペース等考えている。

子供創造館は、約千平米程度とし、子供館の対象は幼児・児童が中心ですが、その他学生との交流やボランティアの育成を図り、誰でも楽しめる施設にする。

図書館と子供創造館は一体施設とし、互いに補完させ、経費の面でも効率化を図る。

三 花トピア事業

環境課長 平成3年からより彩りのある環境をテーマに、町のイメージアップと町民の美意識の高揚、環境の保全を図るべく花トピア事業を展開している。旧三町村とも町村有地・県有地・個人の所有地等も活用し花壇管理をしている。

花を育てる会や自治会自主グループ等ボランティアで花壇管理し、生活環境の確保を目的として町なみ緑化補助制度を設けた。



花トピア事業



三浦勇揮 議員

結婚相談と現状の配偶者不足の対策について

質問 旧足和田村結婚相談員として委嘱され、その重要性と責任の重さを痛感した。その実態は、深刻かつ悲惨なもので、既に結婚適齢期を過ぎた四十代前後の後継者が50世帯から60世帯と推定される。この機を失った場合、家庭崩壊は免れず、最悪な事態を招く恐れさえ感じる。

この問題は、旧足和田村のみならず、富士河口湖町全般の共通課題でもある。結婚相談での行き詰まりを感じる中で町としての対策は、

企画課長 新町の建設計画には、その実現のため幾つもの構想を立てている。元来結婚してその地域に新居を構え、生活をしていくとなると、その地域との関わりを持つこ



古屋一哉 議員

富士河口湖高校下の雨水対策について

質問 船津土地改良区の清算が完了したので、船津八津倉地区の雨水対策の計画予定は、

とは重要な条件となる。いずれにしても地域柄という壁を越えた、精神的な交流の機会が多面的に現れるのが結婚という世俗感である。家庭環境や個人的性格とは別として、行政や地域を上げて、暖かい環境を作っていく。

西湖南グラウンドの整備及び維持管理について



質問 地域観光振興の一環として西湖南グラウンドの老朽化と破損した施設の修復について、町としての考えは、

生涯学習課長 地域観光協会にその業務を付託、維持管理をお願いする。



河高下の通学路

坂本助役 今後の計画予定は、土地改良の記念公園開設の中で浸透池の併設、旧河口湖カントリー事務所の買収に伴う道路改良の一環として街角公園の中の浸透池新設、富士登山道の改修や河高から駅にかけての歩道の新設等々による道路側溝の

拡幅を活用した雨水の湖水への直接放流

についても近々取り組む予定である。しかしながら、自然地形に起因する八津倉地区の雨水対策を抜本的に解消していくには、これら施策だけでは十分とは言えず、町民主導のまちづくりとして、

将来の周辺開発の動向等も視野に入れ、地域全体の取り組みとして展開し、当該地区住民みずからが率先し、行動する熱い思いが極めて大事であると考え、期待している。

学力低下について

質問 完全学校週5日制の導入による教育内容の削減や学習時間の減少で、学力低下を懸念するが、現状と対応は、

教育長 学力低下への不安が叫ばれておるが、管内の学校においては、五日制実施以前と比べ、特

に学力低下はみられない。町においては、町単教諭やきめ細かな指導ができるような教員配置により、少人数や個に応じた指導が行われ、学力向上のための条件が整えられている。しかしながら、子供たちの多くが塾に通っているのも事実であり、学力低下を懸念して

のものなら、実態を真摯に受け止め、学校現場としても、学習塾に依存しなくても学力水準が十分保てるよう、今後も指導方法や内容の研究に一層力を注ぎ、子供たちや保護者の負託に答えていく考えである。

障害者への窓口サービスについて

質問 ユニバーサルデザインのもと、障害者はもちろん、高齢者や小さな子供を持つ家族にも優しい窓口サービスの構築について、町の考えは、

総合窓口課長 窓口には一般の町民の方、障害を持つ方や高齢者等の方々



手話教室のようす

に心がけ、優しい窓口サービスを目指したいと考えている。さらに、現状、手話ができる職員が一名であり、手話奉仕員要請講習会を利用し、秋までには総合窓口職員で手話の対応ができるようにしていきたいと考えている。

下水道事業について

質問 合併により、下水道事業にかかわる起債が七十九億円となる。15年

度の旧町村毎の償還金と使用料収入の差は、旧河口湖町二億六百万、旧勝山村一億二千百万円、旧足和田村一億八千万円となり、計五億円近い金額を長年にわたり三位一体改革による厳しい財政状況の中、一般会計から繰り入れなくてはならない。使用料も旧町村毎に違うが、今後の下水道事業の運営の方向性は。

水道課長 本来下水道事業は独立採算制で経営するものあり、今後、使用料を適宜改定し、自ら財源確保し安定した運営することが望ましいと考えている。現状使用料は、合併協議会の下水道分科会で、当面現行の通りとし、今後3年以内に調整することとなっている。しかしながら、使用料は、受益者負担の原則はもとより、事業会計の根本をなすものなので公平な料金体系が望ましく、今後、使用料の統一化に向けて、検討委員会等を立ち上げ研究検討していきたい。



渡辺秀一 議員

青木ヶ原木道 設置計画について

観光課長 青木ヶ原樹海は富士山の溶岩流上に形成された樹海で多様な動植物と出会え、世界に誇れる自然であると認識している。

町では、自然環境にできるだけ負荷をかけず、青木ヶ原樹海散策の魅力を高め、散策道以外への不必要な立ち入りを制限し、自然環境の保全と利用の調和を考えた青木ヶ原樹海木道トレイルの設置を計画している。木道の具体的内容は、高齢者、身障者の方々への配慮を



青木ヶ原樹海

視野に入れながら関係機関、自然保護団体等から意見を聞き、内容等を詰めていきたいと考えている。

西湖ヒメマス養魚場 建設事業について

質問 建設計画にある調査委託の内容は。

農林課長 調査内容は、調査をお願いする西湖漁協と養魚場の規模及び機能、建設地の選定、管理運営方法、水源の調査等々について協議し決めていきたいと考えている。そのためにも、先進地の視察や、飲食店や宿泊施設等へのアンケート調査を行ってきたい。また、おいしいヒメマスが年間を通じて提供でき、各施設等で食べることができるようになり、西湖地区の特産品としてさらに定着することを期待している。

車両（バス）の 安全管理について

質問 足和田地区で使用しているバスは、購入後14年経過し、修理はしているが、いつ故障が発生してもおかしくない状況である。バスは、児童生徒をはじめ多くの町民が利用するものである。新町におけるバスへの安全対策、安全管理への対応は。

管理課長 足和田地区のバスが老朽化していることは承知しており、町民の足として安全性が一番であるので、廃車等についても検討している。廃車になった場合は、新町所有のバスを弾力的に活用し足和田地区住民の足を確保していく。安全対策、管理は、法定点検はもちろんのこと、運行前運行後の点検、特にブレーキ、タイヤについては細心の注意を払うように指示している。また、無理のない運行計画を組むと共に、運転者への安全教育等の徹底を図る。



小佐野一久 議員

少子高齢化対策の 対応について

質問 今、日本は激しい少子高齢化が進んでいるが、町においては今後少子高齢化対策として十年二十年后を見据えた町独自の長期総合計画を立て、プロジェクトを立ち上げる考えがあるか。

また、少子化の著しい大嵐地区は今後どのような方向付けをするか。

併直後なので十年二十年后を見ながら洞察し高齢化対策少子化対策も基本的に考えていかなければと思うし、近いうちに長期総合計画も計画していきたいと思う。その中で人口増がキープできる町づくりも将来的につなげていきたいと思う。この中には企業誘致を図り町の活性化を図ることが、雇用増大にもつながり、一面観光による雇用効果は他の業種と比べて四・五番に入っているが、観光創出にもつながり、観光振興面でも雇用の増大につながり大きなポイントになる。

また、小立・船津財産区の地域を対象とした状況ではスバルラインを挟んだ富士吉田市と連携をとり、国際的な学術都市ができるかもしれない状況にきている。言い換え



ゲートボールを楽しむ

町長 将来に向かっ

れば、アクティブタウン構想も考えられ、町の総合計画の中に折り込んだ高齢化対策少子化対策につながると思う。そのためにも、大学の話をするが、来年4月12日にフイッシングカレッジが定員85名で河口湖大池のスクールで一期生を迎え開校する。そうしたつながりが出れば、それなりの町づくりにつながると思う。

大嵐地区の考えについては、地域の特区化を考へ指定し、今、町営住宅という方向に目が向いているが、地区の皆さんのご協力をいただき民間導入による活性化も合わせて考えていきたい。そしてそれらを町づくりの基本に据えて少子化対策の歯止めになるように方向付けたい。



白壁賢一議員

三位一体施策における影響とその対策について

質問 地方の切り捨て悪策三位一体がスタートした。この国家の一大事に対する当町としての対策を示せ。また、年初に提出した提言書は施策、予算に反映されているか。

町長 是非は別として三位一体施策についてくるべき時が来たと実感している。また、将来の歴史がそれなりの評価をするとも考える。三位一体改革が明示される以前から地方自治体は、自ら律する、その根幹は経営的観念が必要と考えまた、実行してきた。しかし、今まで以上に権を締めなおしてかかるつもりである。とくに予算で意識したこと、歳入が激減す

る中で投資対効果をにらみながらの予算削減であり例を挙げるときりがながい、すべての項目に対して見直し抑制を実行した。強いて例を挙げるなら職員の評価制度の導入、職員数の削減、町長以下三役の給与カット、災害地域を除いた消防団員の削減、過去に考えられなかった報奨、委託、負担金の削減、公共事業における実勢価格化、等々が代表的である。

しかし歳出削減だけではなく歳入増も平行して実施特に今回は、受益者負担の見地からある一定の事業者に対してごみの有料化に対する負担増をお願いする。

平成16年度予算が厳しい中でも組め、運営できるのは、議員諸氏の提言があつての結果であることを報告、感謝申し上げます。

観光施策について

質問 ビジットジャパンによるところの東南アジア観光客が威容をかもし出している、当町の現状と方向性を示せ。

観光課長 駅前案内所に観光客は九千二十人、その内アジア34・9%、ヨーロッパ36・2%、北アメリカ18・7%、オセアニア7・3%である。国

では香港を含むアジア五カ国と北アメリカからの集客を目指していたが二千四年よりヨーロッパにも目を向けていく方針が示された。当町としてもビジットキャンペーンを活用しながら日刊マラソンで代表される今までの海外ネットワークを利用しながら誘客活動を更に進め国際観光都市としての地位を築いていきたい。また、ホームページについても外国語ページの新設も視野に入れ今後取り組んで行きたい。

視察研修の積極的な受け入れについて

質問 当町を視察目的で訪れる方々は年間千人と聞く。それにより対応方でブライキングが起きているのも事実、本末転倒なこの事実をどのようにとらえ対処するつもりか。

総務課長 旧河口湖から始まり新町に至る現在でも五感文化構想を肌で感じ取ろうと、全国から研修にいられているのも事実であり、職員の中には迷惑がる者もいるが自町の案内に当たっては、誠心誠意取り組み満足いただいていると考える。ただし、どうにも対処の出来ない時期は、丁重にお断りしていたこともあった。今後については、各セクションにおいて住民バランスも十分注意する中で一生懸命対応し視察研修が町の活性化対策の一翼を担えるよう努めていく。

町政インターンシップ制度について

質問 海外、国内の学生をインターシップとして将来の親善大使に抜擢し少ない予算で富士河口湖を国内に国外に売り出すことについてどのように考えるか。

総務課長 健康大学、人事院公務研修等でインターシップとは根本的に違うが似たものを実施している。質問にある具体的手法については考えていないが、さまざまな形で当町にいられた方がある面での親善大使になりうるものと考えている。



視察研修

に寄せる想い

町内出身者からの声



外川 織彦
原研環境科学研究部
海洋環境研究グループリーダー

大石出身

富士河口湖町大石に生まれ、高校を卒業するまでの18年間で過ごした。故郷を離れてから早27年が過ぎ去り、その間国内外の様々な場所で暮らしたが、やはり故郷が心の拠り所となっている。

地元で暮らしていた時には、見慣れた富士山と河口湖であったが、時折帰省する際にはその雄大さと美しさにしばし見とれ、子供の頃の楽しい出来事を思い出す。環境問題、特に海岸汚染の評価と解決に係わる職業に就いたのも、多感な時代にこのような多くの自然に

親しんできたことが原点になっていると強い繋がりを感じる。

故郷に帰った時に肉親、親戚、旧知の人々に会うのもまた喜びの一つである。地元でがんばって働いている多くの人々に自分が支えられていると感じる。これらの人々に報いるためにも故郷を遠く離れてがんばることができ、いずれは故郷に恩返ししたいと考える今日この頃である。



小佐野 輝雄
聖光学院高校教諭
二期会合唱団構成員

勝山出身

「回帰」

先日、早春の大和路を訪れる機会に恵まれ一日飛鳥の里を巡りました。青々とした木々を抱いた山々に囲まれ、里には家並みの間を、それほど広くない曲がりくねった田舎道が寺社、史跡をぬいながら畑まで続いています。その落ち着いた佇まいは何の違和感もなく私を迎え入れてくれたのです。これはふるさと「勝山」の景色に似ているのでこんな感覚にさせたのだと思います。

ふるさとの 山に向かひて
言う事なし

ふるさとの山は 有り難きかな

やわらかに 柳青める 北上の
岸辺目に見ゆ 泣けとごとくに

石川啄木のふるさとへの強い思い入れが感じられる詩です。この詩に平井康三郎による歌曲があり度々演奏会で歌います。啄木は北上を思い浮かべたのですがもちろん、私は富士と湖のある自分のふるさとをイメージして表現します。ふるさとには澄んだ空気、清らかな水、静かな時があります。そこから私は生きる力をさりげなく持ち帰ります。 2004年4月



梶原 長雄
学校法人日本大学顧問

長浜出身

市町村合併は新旧首長の考えと、住民の立場に異なるところがあるのはやむを得ないが、各々が理解を深めて、新しい方向を見極めて合併を生かして頂きたいと思います。

私は、旧の町村にはそれなりに伝統があったのですから、それは捨てないで、生かしていくことが発展につながると考えます。

富士河口湖町は、国立公園の中にあります。国立公園の幾つかの湖を抱えていますのでスイスのレ

マン湖のように清い水の、きれいな岸辺の、どなたがおいでになられても、なんて美しい、というような湖水にしたいものです。

観光の地ですから、外国語教育、特に英語教育を小学校からはじめ、英語会話ができるようにしたいものです。日・中・韓の国の、小中高の生徒の英語力は、日本が最低でした。

英語力に力を入れてください。

富士河口湖町



古屋 和雄
NHKアナウンサー

小立出身

ニュースや番組で河口湖の話題が出てくると、つい身を乗り出してしまいます。

父方は小立、母方は勝山村が出身地です。

富士山は周囲360度から見えますが、故郷の富士山は、乙女富士と呼ばれるように、なで肩で優しい姿をしています。今は、県道より南もずいぶん拓けましたが、私が小さいころは雑木林でした。

祖父が「開墾に行くべえ」と言うとうと、牛車に乗って、呉井塚あたりに燃し木を拾いに出かけました。

祖母はいつも民謡を歌って聞かせてくれました。雑木林の中にはストメが沢山ありました。木の上にアケビの実を見つけると嬉しく、バナナのように大切に食べたものでした。好物は何といってもホウトウで、特に朝煮直したのホウトウは、トロっとして美味しいものでした。

今住んでいるマンションを選んだのは、ベランダから富士山が眺められるからです。富士山を望みながら、美食におごった今の暮らしを反省している毎日です。



井出 竜也
プロ野球選手
読売ジャイアンツ

船津出身

生まれ故郷の河口湖町を離れて15年になります。私は小学3年の時に船津少年野球に入団、投手として小学、中学そして高校球児の夢でもある夏の甲子園に出場し、三回戦まで進みベスト8を目指したが果せなかった。

高校卒業と同時に社会人野球の名門、日本通運に入社し、社会人3年目外野手に転向、93年のドラフト会議で日本ハムファイターズに逆指名二位で入団、03年のシーズンオフに読売ジャイアンツにトレードされ、11年目を迎えた先日1000試合出場を果せました。

川崎市に住んで11年、先日12チ

ャンネルで河口湖温泉の旅が放映され、年に1~2回しか帰郷できないが、改めて河口湖に映る富士山の美しさに胸が一杯になり、試合で各地を見て回っているが、わが故郷には世界に誇る富士山と河口湖の自然美の遺産があり、機会がある毎に富士河口湖町を宣伝しております。

帰郷する度に家の新築が増え、道路を改良され、健康科学大学も開校、今後も環境に配慮し、町づくりにご尽力をお願いします。

やっぱり故郷には、両親や親戚、町民や幼馴染みの良き友が私を温かく迎えてくれます。



渡辺 喜宏
東京三菱銀行
常務執行役員
アジア本部長

河口出身

先日、中国大使、武大偉閣下と食事をご一緒した。昭和40年代に学生生活を送った同世代人として、中国戦後の荒波を越えた処世のお話は興味深いものだった。

大使は、「ハルピン近郊、遮るものもない、夜は地平線上に星のきらめく、冬季零下40度になる寒村に育った。この農村育ちの原体験が中国の文化革命から改革開放そして現在まで生き抜く支えとなり、時流に徒に流されず、今日を迎えることができ

た」と話された。

比べようもないが、私も長年に亘り香港、ロンドン、台湾と変転する国際金融の前線にあった。思えば富士河口湖町の自然と開かれた風土が、異なる世界への出発点であった。

富士山を神の化身とし、湖のほとりで先人が築き伝える文化に満ちた郷土での原体験は色あせない。異文化に溶け込む下地をなしたことを他国の方に教えられた一歩であった。

1月

- 13日 産経土木常任委員会
- 14日 自治会長・区長懇談会
- 26日 議会運営委員会
臨時議会開会・閉会
- 27日 議会運営委員会研修会 (牧丘町民ホール)
- 28日 和田町議会視察研修

2月

- 5日 全員協議会
- 9日 安城市議会視察研修
- 10日 邑久町議政務調査視察研修
- 16日 産経土木常任委員会
- 21日 富士山の日【採火式】
- 27日 産経土木常任委員会
- 28日 富士山の日【出発式】
大焚き火【点火式】

3月

- 4日 3月定例会開会
- 5日 一般質問
- 8日～10日 河口湖決算特別委員会
- 11日 勝山決算特別委員会
- 15日 足和田決算特別委員会
- 16日～18日 予算特別委員会
- 22日 全員協議会
文教社会常任委員会
- 26日 特別委員会報告
3月定例会閉会

議会を傍聴
しましょう!!

次の定例会は6月です。

役場の議会事務局で住所氏名を記入すれば、だれでも傍聴できます。



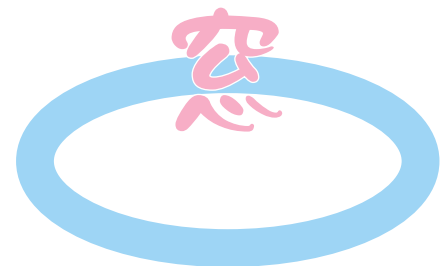
やぶさめ祭り (61歳還暦者)

西湖に
嫁いで



この地に嫁いで早や三十二年、山裾の一軒家で行き交う人の少なさと夕闇時の真暗さ、

夫の帰りの遅いときなど抱っこした子供と一緒に泣いたことがさも昨日のように思い浮かびます。それから数年して西湖の辺りで小さな店を始めましたが、実の所右も左も分らない手探りと失敗の毎日でした。



ちゃん、ただいま。嬉しい限りの言葉で訪ねて頂いております。毎日に違う湖面を眺めながらの生活で西湖と

いう豊かな自然で育つ『姫鱒、ワカサギ』等、神祕で貴重な食材を丁寧に調理し、食べていただいたお客様が『うまかった、おいしかった』の言葉にありがたうと、少しばかりの自慢をしながら日々感謝しております。



西湖より青木ヶ原樹海を望む

西湖七〇一三
朝比奈しず子

夫、息子夫婦、孫達を大切にし大自然の英気を一杯に浴び健康な家庭を築いていきます。

編集後記

北麓も花のシーズンを迎え、ピンクや黄、白と色とりどりに目を楽ませてくれます。
今号は、予算・決算が同時に審議されたため、内容も相当要点をしぼって掲載されています。
詳細については、議会事務局にお問い合わせください。

編集委員一同